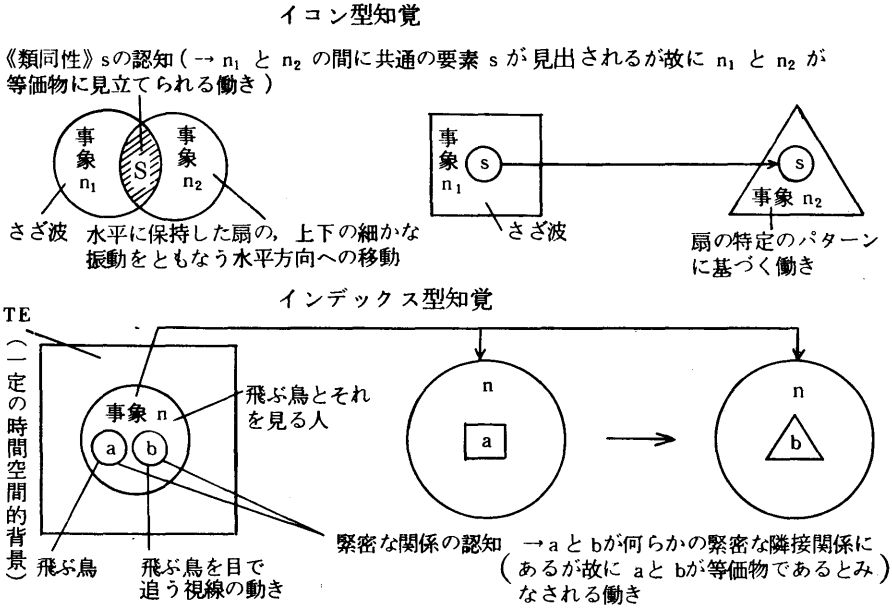
# 小説にみる表現の構造

## “ La Chatte ”における作中人物の心理描写，性格描写を支配する二つの手法，すなわちイコン型手法とインデックス型手法についての試論

中居　慶子

§1. 筆者はかって『日本古典舞踊にみる表現の構造』[註1] と題して，長唄『梅の葉』を例にとりながら日本舞踊の振付はイコン型の表現，あるいはインデックス型の表現のいずれかに分解できることをみてきたが，又一方，言語表現における比喩の場合にも，語義の多義性の場合にも，イコン型表現に相当する paradigme 型，インデックス型表現に相当する syntagme 型の二つのタイプの語義の転移が抽出できることを『詩にみる表現の構造』[註2]『現代フランス語にみる語義の多義性と métasémème の構造との類縁関係について』[註3]『語義のsens propreとsens figuré との有縁関係の構造について』[註4] の各論文において述べてきた。イコン型の表現というのは，たとえば日本舞踊においては，波のうねりを表現するに両手両腕でうねりの線を描きだしたり，さざ波を表現するに水平に保持した扇を細かく上下に振動させながら水平に移動させたり，風を表現するに踊り手の全身が風となって広げた扇で風の動きを真似ながら舞台をかけめぐったり，あるいは又，花びらの風に舞うのを扇を上下にひらひらかえすことによって表現したり，といった類いであり，インデックス型の表現とは，月を表現するに中空にかかる月を眺めやるポーズとまなざしによって示唆せしめたり，新春であることを童女が追羽根をするさまを真似ることによってあらわしたり，鳥が飛ぶのを表現するに飛ぶ鳥を目で追う所作によってあらわしたりの類である。言語表現にあっては，日本語の日常的なことばづかいに例をとれば，婦人の目尻にあらわれる皺を「からすの足跡」と呼ぶ場合，企業が廃棄物をまともなやり方で処理しない場合の「たれ流し」，赤ン坊の「モミジの手」などの場合がイコン型表現に相当し，大儲けした大企業は今期は「笑いがとまらない」，被害者は「泣き寝入り」などがインデックス型表現に相当する。即ちイコン型表現とは，目でみたかたちが似ているとか，動き方が似ているとか，状況が似ているとか，機能が似ているとか，その他さまざまの視点から捉えられた何らかの類同性を相異なる二つの事物，事象において認知する働きに基づくものであり，ど

こか互いに似たところのあるこれら二事象や二事物を互いに等価物であるとみなそうとする心性に起因している。一方インデックス型表現は，時間の流れの中にあってある事物，ある事象が人間によって体験知覚される場合，その事象の中に全体と部分との関係が同時的に見出されるとか，見る人と見られるもの，あるいは聞く人と聞かれるものといった二つの部分的要素の対立関係がみとめられるとか，体験された感情とその感情の外的な表出（表情・呼吸・身振りなど）といった因果関係が存在する，あるいは原因と結果の関係，あるいは時間的前後関係，空間的位置関係が存在する等々，何らかの隣接関係の認知に基づくものであり，時間の流れの中に知覚体験される一つの事象，一つの事物の中で緊密に結び合っていると感じられる二つの要素なり二つの側面なりを互に等価物であるとみなそうとする心性に起因している。つまり，イコン型表現の基盤にあるとみられるかかる心性をイコン型知覚と名づけるならば，イコン型知覚にあっては二つの事物や二つの事象 $n_1$ と $n_2$ のの間に何らかの共通要素Sが感得されるが故に，これら二事物あるいは二事象が等価物であると見なされなければならないのであり，インデックス型の知覚にあっては，ある一定の時間空間的背景TEにおいて体験知覚される一つの事象nにおいて緊密な関係にある二側面や二事物aとbが見出されるが故に，この二側面（あるいは二要素）aとbが等価物に見立てられなければならないのである。



ところで，主として相貌的な把握に基づいて感得される共通要素を含む二つの事象を等価物として扱おうとするイコン型の心性，互に緊密な関係にある二要素ないし二側面を等価物として扱おうとするインデックス型の心性，この二つの心性ないし思考は，人間の言語表現のみならず造形芸術はもとより，舞踊・音楽などあらゆる芸術表現の底流をなす意識であるが，本稿ではこの二つの心性ないし思考が小説における表現法－即ち手法－をどのように支配しているかをつぶさに検討してみたいと思う。

§2. 手法分析のマチエールとしては，Colette の *La Chatte* をとりあげるが，この作品は相反的な性情の傾向をもつ一組の男女が結婚し，そして別居に到るまでの3カ月余の期間の心理過程を描いた小説である。以下に *La Chatte* において描かれた事件のあらましを参考までに要約してみる。[註5]

Alain は25才，絹織物を扱う旧家アンパラ商会の一人息子，父は死去して母と二人でパリ郊外 Neuilly にある庭の広い古風なスタイルの古い家に，数人の召使を使って住んでいる。彼は生れつき感じやすい子であった上に大事にされ甘やかされて育ったため，神経質で精神的にひよわなところがあり，さまざまの苦労のともなう成人としての現実生活に対してはやや逃避的な気分を感じている。そういった現実逃避的傾向のせいで年齢的には過ぎ去ったはずの子供時代に今なお精神的に執着していて，寝床で一人夢みるのが大好きであるという金髪の美青年である。又，品格のある良家の育ちらしく，行儀作法をよくわきまえ趣味も繊細である。しかしながら Alain 自身は，一つには自分の生まれつきの憶病な気弱な性質の故に，又一つにはその弱さを矯正する方向には注意が向けられずに，専ら保護し甘やかす方向で養育されたことの故に，自分の生れ育った環境とは異なる性質の環境や未経験の新しい状況，新しい人間関係に適応する極めて低い能力しか成長の過程で発達させ得ず，そのためとかく現実の生活に対する不満の感情が生じるのだが，潜在的なこの不満の感情からの逃避としてつちかわれた己れの夢想的性格に対して，自分の弱さの自覚とか何らかの劣等感情とかはもたず，むしろその逆に，自分は普通一般の野卑な騒々しい連中とは違んだ，繊細な感覚を備えたすぐれた男なのだという優越感情をもって，己れの夢想的感受性を肯定している。又，Alain は一匹の雌猫 Saha を可愛がっているが，Alain の Saha に対する愛情のあり方は動物好きの人が単にペットとして動物を愛玩するといった趣きにとどまらず，Alain は Saha の中に自らが誇りとしている貴族性，何ものにも隷属しようとしない貴族的性格と同質のものを認め ── 即ち夢想的な気分で Saha の中に自分自身を見て ── Saha との間にあた

かも互いに一心同体であるかのような強い精神的絆をつくりあげている。

一方，Camille は19才，Alain の家がかっては隆盛を極めたでもあろうが，現在に至っては斜陽企業とみなされるべき絹織物商で没落の方向へと方向づけられていたのに達して Camille の家は新時代の企業であるところの電気器具商，マルメル洗濯機商会を経営している。Camille はとりわけ脚の美しい，濃い褐色の髪の美人で，性格は明朗で勝気，心身ともに健康そのものの元気潑剌たる娘だが，言葉遣いにぞんざいなところがあり，話す時の声も大きく，いささかお行儀も悪い。つまり立居振舞全般に若干の無神経さがみられる。

さて，こうした二人が数年前に知り合って Alain は Camille を当世風の美人だと思い，Camille も Alain を気に入って，双方の家庭の経済的地位が釣合ってもいて，周りの人々に祝福されて，Quart-de-Brie にある10階建のアパートの10階にある友人宅を友人が長期旅行に出かけているのでその間借り受けて，Alain の家の庭に二人の為に目下建てている新築の家が出来上るまでの間の借りの宿として，5月のある日新婚生活に入る。

Alain はもともと Camille との結婚に対してはそれほど積極的な気持は持っていず，自分の結婚はまわりの人達や Camille を喜ばすためだと考えてみたりしていたし，肉体的にも疲れやすい体質のせいもあって，Camille が婚約時代，日に幾度も接吻を期待しているのを荷厄介に思うこともあったが，結婚後は Camille の立居振舞の粗野なところ，無神経なところといった自分の性質にとっては異質な部分に抵抗感をもち，Camille との間に心理的な違和感を感ずると共に，Camille の奔放な情欲に辟易させられる。又，ビルの10階のアパート住いという殺風景なすまいには気持がなじめず，Neuilly のさまざまの花の咲きにおう広い庭をなつかしく思っている。ある日，可愛がっていた猫の Saha が気にかかって猫の様子を見に生家に帰ると猫にはかっての生気がなく，すっかり衰弱しているように見えたので，たまらなくなってアパートに猫を引き取る。一方，Camille は性的欲求の旺盛な体質で，しかも日がな一日完全な有閑無為の状態で――家事は家政婦がするので――アパートに閉じこもっているため Alain との情交が主たる関心事となっているが，結婚一ケ月ほどの間，Alain が Camille の欲求をどうにか満たしてやっていた間は，Alain が Camille の強気な態度や，優雅とは云えない言動に対する批難の気持をつのらせている為に，又 Camille の方でも Alain のデリケートな感受性や夢想的な気分を理解せず，母性的な愛情をもっていたわってやるということがない為に，二人の間に生じている何かしっくりいかないという感情や，気持が通じ合わないという感じなど

の心理的緊張感に対しても，それほど拘泥することもなく耐えてきたが，朝晩の性的奉仕によって Alain の心身の疲労が極限に達し，一人で夢みることのできた子供時代へのノスタルジーにかられて，ある晩ついに Alain が情交のあとベッドを抜け出して別室の長椅子で雌猫の Saha と頬を寄せ合ってねむるというくせをつけ出してから， Camille は性的欲求不満と屈辱感を抱き，こういった不満の感情が Saha に対する憎悪の情となって爆発して，7月のある日 Saha を 10 階のテラスから下につき落してしまう。 Saha は奇蹟的にけがもせずに命拾いをしたが， Camille の犯行を知った Alain は，生家に帰って昔通り母や Saha と水入らずで心安らかに暮したい，新築工事が完了しても自分にとって神聖なあの生まれ育った家に Camille を住まわせるのは絶対に嫌だという感情を昂じさせていたので，この事件を自分のかねての腹づもりの実行の為にうまい具合に利用して Saha を連れて実家に帰ってしまう。一方， Camille は， Alain が「普通一般の男」の一人であってくれたならば・・・・ という暗い感慨を抱き，深く傷つきながらも離婚という破局に至るのを何とか切りぬけて再び同居生活に入ることを期待して，できればよりをもどそうとするが， Alain の方では応ずる気配が全くない。

以上に概略を記したような出来事 -- 仮想の四次元の世界での三ケ月余にまたがる一組の男女の生活の歴史 -- を小説として構成するにあたって，出来事の展開される空間的背景としては Neuilly の Alain の家とその庭がかたちづくる空間,Quart-de-Brie の新婚のアパートのいくつかの部屋とテラスがかたちづくる空間の二つが基本的には設定され，その他では Alain と Camille のドライブの場面が一箇所挿入されているだけである。そして小説全体は Alain の家とその庭を背景とする場面から新婚のアパートを背景とする場面へ，又 Alain の家の庭へと交互に転換される 20 の場面から構成されることになるが， これらの各場面 -- 空間的背景と時間的背景の双方を同時に基準にした場合の場面 -- において記述された主な出来事を時間の流れに沿って配列すると下記の如くである。[註6]

| 時間的背景 | 空間的背景 | 記述された主な出来事 |
|---|---|---|
| ①5月初旬某日<br>(結婚式の7日前)<br>の夜 10時～就寝時 | Alain の家とその庭<br>(所在地： Neuilly ) | 1. Alain 家を訪問している Camille とその両親<br>2. Camille が Alain に接吻してもらうことばかり考えているが Alain は疲れているのでうとましく思う<br>3. Camille たちが帰ったあと，疲れきっていた Alain は解放感を感じて雌猫の Saha と寝室に寝にゆく |

| 時間的背景 | 空間的背景 | 記述された主な出来事 |
|---|---|---|
| ②同日<br>就寝時～翌朝 | Alain の寝室 | 1, Saha とベッドにつく Alain<br>2, 夢みる Alain |
| ③翌日，午前 | Alain の家とその庭 | 1. Saha と庭でたわむれる Alain<br>2. Camille の来訪 |
| ④5月某日の朝<br>(結婚式の翌朝) | 新婚アパート | 1. Alain が目覚めると Camille が全裸で部屋をうろついているのでみとがめるが Camille は頓着しない<br>2.二人が朝食する<br>3.ベッドでの朝の営み<br>4. Alain が里帰りの為（Sahaの様子を見にゆく為）アパートを出る |
| ⑤同朝 | Alain の家の庭 | Alain が実家に帰ると Saha がすっかりやつれている |
| ⑥6月のある期間 | 新婚アパート | Camille は行儀がよくなりしとやかになる |
| ⑦6月のある期間 | Alain の家の庭 | 1. Camille が新築工事を見廻りに来て注文などをつけている<br>2. Emile (Alain家の家令) が Camille の態度について Alain に皮肉味をこめて語る<br>3. Saha が Alain に対してよそよそしい態度をとり以前のように甘えようとしない |
| ⑧6月某日 | Alain の家の庭 | 1. Camille と Alain が新築工事を見廻りにくる<br>2. Camille をこのすばらしい庭の一角に住まわせるのはいやだという感情を Alain は持つ<br>3. Saha が衰弱して元気がないのでアパートに連れてゆくことに決める |
| ⑨6月のある期間 | 新婚アパート | Saha がやや元気をとりもどす |
| ⑩6月某日の夕～夜 | 新婚アパート | 1. Alain と Camille 口論<br>2.和解後の夜の営み<br>3. Camille が再び催促する<br>4.口論<br>5.和解 |
| ⑪6月おわりごろ | 新婚アパート | 性生活による Alain の疲労，Camille に対する嫌悪感．Camille のはげしい情欲 |
| ⑫7月某日 | Alain の家の庭 | 1.召使いたちが Camille の悪口を云っているのを Alain がぬすみ聞く<br>2. Camille をこの家に住まわせない方法はないかと母親に相談する |
| ⑬同日 | 新婚アパート | Alain は アパートに帰ると Camille の Saha を口ぎたなく罵しる声を聞く |

| 時間的背景 | 空間的背景 | 記述された主な出来事 |
|---|---|---|
| ⑭7月某日 | ドライブ | Alain は自分で期待していた以上に Camille とのドライブを楽しむ |
| ⑮同日，晩 | 新婚アパート | ドライブから帰って猫のことを話題にして口論になる |
| ⑯翌朝～ある期間 | 新婚アパート | 1. Alain はあけがたベッドを抜け出して長椅子でねむる<br>2.その後毎晩 Camille のそばをのがれて Saha と長椅子で寝る習慣をつける |
| ⑰7月某日夕（7月31日） | 新婚アパートテラス | Camille が Saha をテラスからつきおとす |
| ⑱同夜 | 新婚アパート | 1. Camille の仕業が発覚する<br>2. Alain が Saha をつれて実家に帰る |
| ⑲同日夜～翌朝 | Alain の家とその庭 | 1.ベッドで Saha が Alain に夢中になって甘える<br>2. Saha が生気をとりもどす<br>3. Alain が Camille との離婚を母親と相談する |
| ⑳8月1日同日朝 | Alain の家の庭 | 1. Camille がくる<br>2. Alain と Camille の対話。Camille がよりを戻そうとするが Alain は応じない |

又，*La Chatte* の作品の構成をさらに端的に把握するためには，Alain・Camille・Saha の三者の間の関係を明示することが必要であると思われるので，以下に Camille の Alain に対する態度と，それに対する Alain の反応，Alain及び Camille の Saha に対する行動と Saha の反応を，三組の二項対立のかたちで以下に記してみる。

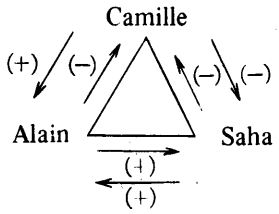
| 作用主＝Camille | 被作用主＝Alain |
|---|---|
| 1. Alain に接吻を求める | 2. 拒絶反応（＝疲れているので応じられない） |
| 3. nous の代りに on という | 4. 拒絶反応（＝ききとがめる） |
| 5. Alain に接吻を求める | 6. 拒絶反応（＝母の手前をはばかって応じない） |
| 7. 新婚の朝裸体で室内を行動する | 8. 拒絶反応（＝みとがめる） |
| 9. 情交のくりかえしを求める | 10. 拒絶反応（＝応じられない） |
| 11. はげしい情欲に燃えている | 12. 拒絶反応（＝性生活に疲労し Camille に嫌悪感を感じる） |

| 作用主＝Camille | 被作用主＝Alain |
|---|---|
| 13. 実家に帰った Alain を呼びもどそうとする | 14. 拒絶反応（＝応じない） |

| 作用主＝Camille | 被作用主＝Saha |
|---|---|
| 1. Saha を呼ぶ | 2. 姿をかくす（＝逃避者） |
| 3. Saha をののしる | 4. Camille の圧迫をうけている（＝被圧迫者） |
| 5. Saha を10階のテラスからつきおとす | 6. つきおとされる（＝被害者） |
| 7. Saha にふれようとする | 8. 毛を逆かだてて怒る（＝反抗者） |

| 作用主＝Alain | 被作用主＝Saha |
|---|---|
| 1. Saha を抱いてねむる | 2. Alain に抱かれてねむる |
| 3. Saha を実家に置きざりにして結婚する | 4. やつれる |
| 5. やつれた Saha を心配する | 6. なおもやつれて食事をとらない |
| 7. Saha をアパートに引きとる | 8. やや元気をとりもどす |
| 9. Camille とのベッドからのがれて Saha を抱いてねむる習慣をつける | 10. Alain に抱かれてねむる |
| 11. 10階のテラスからつきおとされた Saha を介抱する | 12. Alain に介抱される |
| 13. Saha を連れて実家に帰る | 14. 昔通りの元気をとりもどす |

つまるところ，*La Chatte* の共時的構造は，Alain は Camille の働きかけ ── 主として Alain を渇望する情動 ── に対して常に拒絶反応をもって応じ，Alain と Saha の間には相互的渇望（＝相思相愛）が，Camille と Saha の間には否定的感情が支配しているという下図の如き図式に還元せられる。




（＋）渇望する
（－）否定的感情をもつ

§3. ところで，以上にその筋書きと構成の概略 ── つまりは作品の論理像ないし

事実像ともいうべきもの ── を見た *La Chatte* は，この事実像ないし論理像が肉化されたものと考えられるところのそのテキスト自体としては，作者がさまざまの情報を読者たちに与える数多くの文から成立っているわけであるが，これらの文が直接的にもたらす情報の性質によって文脈の内容を類別してみると，情報の種類には次の８つのタイプが便宜的に弁別されうる。1. 作中主要人物（＝Alain と Camille）の言動についての情報（動作・行為・様態・台詞等々）；2. 作中主要人物の表情についての情報；3. 作中主要人物の感情・意識・情緒・思考・知覚・心理等々，内面的なものについての情報；4. 作中主要人物の履歴一般についての情報（＝名前・年齢・職業・過去の人生・家庭環境等々）；5. 作中主要人物の行動する空間的背景及び空間的背景内の対象物についての情報（＝空間の様相及び対象物群・戸外の様相及び対象物群・天候・風景等々，演劇における舞台装置・大道具・小道具類に相当するもの）；6. 作中主要人物の行動する空間内の生活的状況全般についての情報（＝主要人物をとりまく端役的人物たちの行動や台詞一般，あるいは食事時である，休憩中である等々一日の生活の中の具体的状況）；7. 作中主要人物の行動する時間的背景についての情報（＝年月日時）；8. 雌猫 Saha の動作・様相・情動等々についての情報。

すると *La Chatte* の任意の passage においては，── 最短の passage では語，最長の passage ではテクスト全体，その他語句・文節・文・いくつかの文の集まり等々のさまざまの長さの passage においては ── これらの８種のタイプの情報の中の最少の場合で１種類，最大の場合で８種類が弁別されることになるが，[註7] これらの情報群はある場合には，単にその字義通りの意味の単義的意味合いの情報であるにとどまらず，その情報の直接的なかたちを媒介として，情報の一次的な意味とは異なるところのある間接的な情報をも又同時的に読者にもたらすべく意図されているとみなされる。たとえば作中人物の動作についての記述ないし描写は，その字義通りの意味においては Camille なり Alain なりがこれこれの動作をしたという直接的な情報をもたらすのであるが，人物の動作についてのこの情報を通じて人物の感情とか情緒・心理・気分といったその場その場の心の動き，あるいは又，性格・気質などの持続的な精神傾向が間接的には示唆されている例，作中人物の台詞の記述がその人物がこれこれのことを云ったというだけの現実描写としての直接的情報を与えるにとどまらず，その台詞を通じて人物の性格や感情が間接的に示唆されている例，人物の表情についての情報が二次的には人物の性格を示唆的に表現している例，作中人物の家庭環境についての情報が二次的には人物の精神傾向を示唆するための

間接的情報となっている例，空間的背景や天候についての情報が人物の情緒を暗示している例等々が，単に字義通りの情報を与えるにとどまる例から弁別されうるのである。そこで本稿ではある情報がその字義通りの直接的な意味しかもたない場合これを単義的情報と名付け，直接的には字義通りの意味における情報であるにしても，それと同時に間接的には何か別の情報をも又示唆的あるいは暗示的にもたらすものである場合，これを複義的情報と名付ける。単義的情報の例および複義的情報の例を，第一のタイプの情報の中から選んで以下にあげてみよう。

a. 複義的情報の例：Il chercha des yeux la chatte et s'arracha de son fauteuil, épaule après épaule, et les reins ensuite, et enfin le séant, et descendit mollement les cinq marches du perron. (p.144)

上の記述は，直接的には Alain の動作についての情報をもたらすものであるが，Alain が現在疲れ切って物憂い気分でいるということを間接的には表現している。又結婚式の7日前なので元気にはしゃいでいる Camille の態度についての情報との対立においては，Alain の動作についてのこの情報は結婚に対する Alain の消極的気分，ひいては又，結婚を前にしてそうした消極的気分をつのらせねばならない Alain の性格を示唆するものでもある。

b. 単義的情報の例：Camille se leva pour emplir les verres. Elle servit son fiancé le dernier, lui offrit le gobelet embué avec un sourire d'entente. Elle le regarda boire et se troubla brusquement à cause de la bouche qui pressait les bords du verre. Mais il se sentait si fatigué qu'il refusa de participer à ce trouble, et il ne fit que serrer un peu les doigts blancs, les ongles rouges qui lui reprenaient le gobelet vide. (p.142)

即ち，Camille が son fiancé (Alain) のためにグラスにシロップをついでやるという動作の記述は，単に字義通りの直接的な情報を与えるのみであって，この動作のあとにくる Camille の表情態度感情についての記述を導き出さんが為のものである。別の記述の契機をつくる役割にあるかかる記述は，有意味的表現間の一種のつなぎの役割を演じているものであり，かかる機能をもった《記述》は文学上の表現に限らず他のあまたのジャンルの芸術表現においてみられるものである。（たとえば日本舞踊では一連の有意味的所作が終って又別の一連の有意味的所作をはじめようとする時，この第二の有意味的所作をはじめるのに都合のよい位置に身体を移すという役割がある以外には，それ自体では無意味な振りを割り込ませている場合があり，こうした振りを"遊び"と呼んでいるが，これはまさしく二つの有意味的所

作をつなぐ一種のつなぎとしての振りに他ならない。)

ところで，複義的情報には以上にみたように字義通りの直接的な情報と，この直接的な情報を媒介としてもたらされる間接的な情報との二つが含まれているわけだが，この二つの情報の論理的関係を分析してみると，複義的情報には次にみるような二つの類型が識別されることがわかる。すなわち第一のタイプは一次的な直接的情報とそれがもたらす間接的情報とが何らかの隣接的関係にあって，直接的情報を媒介としての間接的情報の獲得が換喩的手法に基づいてなされる場合に検出される類型であり，第二のタイプは直接的情報と間接的情報とが同一の精神的相貌をもつ，あるいは又単に共通の要素がみられるという相似的関係にあって，直接的情報を媒介としての間接的情報の獲得が隠喩的手法に基づいてなされる場合に検出される類型である。換喩的手法に基づいて得られる複義的情報の場合は，第一の情報が第二の情報のインデックスとなっているに対して，隠喩的手法に基づいて得られる複義的情報の場合には，第一の情報が第二の情報のイコンとなっている。即ち，前者にあっては複義的情報の作者による案出と読者による解読に際してインデックス型知覚が機能し，後者にあってはイコン型知覚が機能している。つまり第一のタイプの複義的情報は，ある一連の時間空間的背景の下に生起する一つの事象nの内部にaとbという緊密な隣接関係にある要素を認知したために，aとbを等価物に見立て，aを媒介としてbを示唆せしめようというインデックス型手法に基づいてもたらされ，第二のタイプの複義的情報は，二つの事象$n_1$，$n_2$間の何らかの共通要素Sの認知に基づいて$n_1$と$n_2$を等価物に見立て，$n_1$を媒介として$n_2$を暗示象徴せしめるというイコン型手法に基いてもたらされる。以下にこれら二つの類型に属する複義的情報の例を具体的にあげてみよう。

§4. *La Chatte* では，さきに述べた筋のあらましを見てもわかる通り，Camille と Alain の気質や体質あるいは性格の相反性がわずか三ケ月余りの間に新婚生活が破綻をきたすという悲劇の根幹になっていて，さきにあげた第一の場面から第三の場面に至る迄の導入部分で，両者のこうした相反的性向が功みに暗示されたり示唆されたりしているのであるが，Alain と Camille の相反的心性がインデックス型手法によって表現されている例を，これら三つの場面において読者にもたらされている情報群から拾いあげてみると次の如くである。

| | 直接的情報(→ insinuant) | 間接的情報(→ insinué) |
|---|---|---|
| K | Camille は夜遅くまでポーカーをして遊んで疲れた時幾度か飛び上ってみると疲れがとれてすぐに元気になれる | 精力的体質 |
| A | ポーカーのあとぐったり疲れ切っている | 非精力的体質<br>(＝易疲性) |
| K | 結婚式7日前，元気にはしゃいでいる | 結婚に対する積極性<br>(⇒性的生活への積極性) |
| A | 結婚式の7日前，Camille のはしゃぐのに上の空で受け答えしている | 結婚に対する消極的態度<br>(⇒性的生活への消極性) |
| K | グラスの縁にふれる Alain の唇を見て接吻されたいという情欲を感ずる | 情欲的 |
| A | Camille の情欲に気づいても疲れているので無視して応じない(Camille の指を握りしめるにとどめる) | 非情欲的 |
| K | 新婚の贈り物に自動車がもらえるかどうかに熱心な関心を示す | 現実的俗物的傾向 |
| A | 自動車には無関心で花や野菜や乾草の香りのする庭に注意を向けている | 現実逃避的脱俗的傾向 |
| K | 自動車運転が好きで巧みである(巧みなスピード運転) | 活動的性格 |
| A | 運転が下手で運転を好まない | 非活動的性格 |
| K | お酒が積極的に好きというのではないが飲めばかなり飲め，酔うことも出来る | 成人としての体質 |
| A | お酒が飲めない | 小児的体質 |
| K | 運転中，タクシーの運転手に罵詈雑言をあびせる | 育ちの悪さ |
| A | Kのこうした態度に対してやや批難的気分でいる | 育ちの良さ |
| K | 平気で嘘をつき，夜のキャバレーでのデートの為に両親をだます | 道義的に無節操 |
| A | Kに対する批判的感情 | 道義的節度がある |
| K | 早口に活潑に話す | 精力旺盛 |
| A | のろのろした動作で椅子から立ち上る | 無気力 |
| K | nous の代りに on を使ってしゃべる | 育ちの悪さ |
| A | on ではなくて nous と云えとたしなめる | 育ちの良さ |

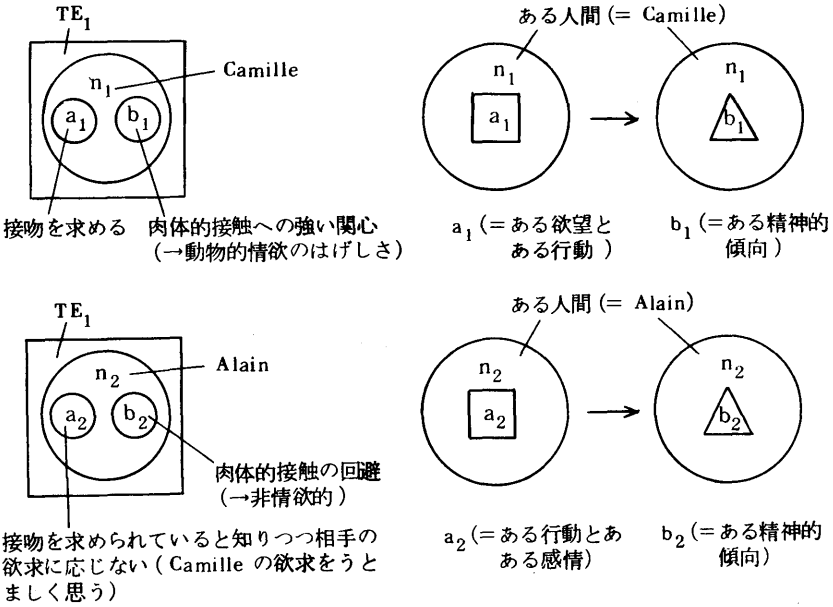
| | 直接的情報(→ insinuant ) | 間接的情報(→ insinué ) |
|---|---|---|
| K | 接吻を期待して電灯を消す | 情欲的 |
| A | 夢想にふけってしまって期待に応じない | 非情欲的 |
| K | 友人の仕事部屋を二人の新婚の住居のためにうまく横取りしようと申し出る | 道義的無節操 |
| A | Camille の態度に異和感を感じる | 道義的 |
| K | Alain の考えていることや感じていることを洞察しない | 感情生活における無神経さ |
| A | Camille の感情の動きや考えていることを敏感に感じとる<br>( K : Camille; A : Alain ) | 感情生活における神経過敏 |

又，第一の場面と第三の場面において Camille が Alain に接吻してもらいたがるが，Alain がそれに応じない，ないしは Camille が期待どうり接吻してもらえなかったので，Alain に対して批難がましい気持を感じているという記述が 4 箇所にわたってみられるが，これらの記述も又，インデックス型手法に基いて二人の情欲のあり方のちがいについての情報を与えるべく企図されている。以上に見た導人部では，Camille と Alain の心性の相反性が両者の行為，行動の対立，欲求の対立などを媒介としてインデックス型手法に基づいて表現されているわけであるが，こうした手法の構造は次頁の図の如くに図示せられる。

即ち，ある行為や行動，態度，又そういった行為や行動の態度や原因となるところのその都度の欲望や感情などが，ある種の精神的傾向を想定させるものである時，作者は読者にある人物の欲望や感情とその結果としての行動についての情報を与えることにより，その人物の何らかの精神的傾向を読者に感得させることができる。したがってこの場合には，人物の欲望や感情，そして又，その結果としての行動の様態が人物の精神的傾向を示唆するインデックスとして機能していることになる。

*La Chatte* ではさきに見た三つの場面がかたちづくる導入部の後，第 4 の場面以下ではいくつかの主要なエピソードが組み込まれているが，これらのエピソードも又，Alain と Camille の精神傾向の相反性をインデックス型手法に基づいて表現している。( →次頁の表 )

(= T：結婚式の７日前の晩からその翌朝
E： Alain の家とその庭)




| 場面 | événement insinuiant | caractère insinué |
|---|---|---|
| 4 | K：結婚式の翌朝，全裸で室内を行動し， Alain に見とがめられても頓着しない | 性的羞恥心 (−)<br>礼儀のわきまえ (−) |
| | A：全裸で平気でふるまう Camille にあきれる | 性的羞恥心 (+)<br>礼儀のわきまえ (+) |
| 10 | K：情交に際してわざと電気をつけておく | 性的羞恥心 (−)<br>性的快楽の追求 (+) |
| | A： Camille が電気をつけているのを知りそれを又わざと消す | 性的羞恥心 (+)<br>性的快楽の追求 (−) |
| | K：雷をこわがらずに観賞する | 憶病小心さ (−) |
| | A：雷をこわがる | 憶病小心さ (+) |
| 11 | K：情交のくりかえしを欲求する | 情欲のはげしさ (+) |
| | A： Camille の欲求に応じない | 情欲のはげしさ (−) |
| 14 | K：結婚後肥る | 精力的体質<br>結婚生活による満足感 |
| | A：結婚後やせる | 神経質 |

§5. 以上にみた複義的情報の例は，ある一定の時空を背景として体験知覚される一つの事物や事象において（即ちさきにあげた例では Alain あるいは Camille という個別的な人間の生活現象において），互に緊密な隣接間係にある要素（即ちここでは第一の要素としては人物の欲望や感情あるいはその顕現としての行為や行動という要素，第二の要素としてはこれらの欲望や感情，行動など時間の流れの中に生じる個別的諸現象に一定の傾向を付与するところの恒常的な気質や性格という要素）の認知に基づいてこれらの二要素を等価物とみなす心性即ちインデックス型心性に依存するところの手法によってもたらされたものであったが，以下にみる諸例は，二つの事物・事象間に，ある共通の精神的相貌が感知される故に，これら二事象を等価物であるとみなす心性即ちイコン型心性に依存する手法によってもたらされた複義的情報である。

まず，Camille と Alain の容貌についての記述の中では，Camille の濃い褐色の髪に対する Alain の金髪の髪が対立的な情報をなしているが，Camille の髪が濃い褐色であるという記述は全篇 9 箇所にわたってみられ，Alain の髪が金髪であるという記述は全篇 8 箇所にわたってみられる。単に人物に具体性を付与する為にのみ髪の色に言及するならばこれほど幾度も同じ情報を与える必要はないわけであるから，*La Chatte* にあっては Camille の褐色の髪において Camille の動物的情欲のはげしさを，Alain の金髪の髪において Alain の夢想的な情緒あるいは叙情的な気分を暗示しようとしているとみられる。この場合には，濃い褐色の髪と情欲の濃密な人との間にはなにがしかの精神相貌上の共通要素が感知せられるので，情欲の濃密さを暗示するに濃い褐色の髪をもってするというイコン型手法に基づいて複義的情報が与えられ，金髪と夢想的性格の人との結びつけに関しても，金髪のもつ淡い色調が与える印象と夢想的情緒との間に何らかの精神相貌的類同性が感知せられるというイコン型心性が機能している。

（註　かかるイコン型手法が可能となる心理的背景には，ホモ・サピエンスの知覚の様式の基盤にあるとみられる原初的な型のゲシュタルトが作用している。即ち，目や耳や鼻や皮膚あるいは舌などの感覚器官を媒介として感性的に知覚された諸対象はそのそれぞれが特有の精神的相貌をもつ。つまり対象自体についての知的認識に先立って ── すなわちその対象の範疇化，あるいは属性の認知などを行う前に ── 対象の全体的印象から人間は何らかの感情 ── 快，不快の感情，あるいは又恐ろしさ，静けさ，優しさ，寄妙さ，こっこいさ等々，さまざまのニュアンスを含む感覚──

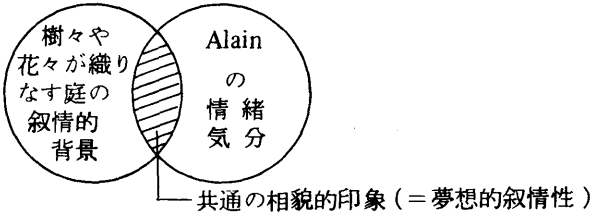
をうけとる。こういった精神相貌的な知覚の傾向は人間の幼児期において，あるいは又，動物（ことにチンパンジー）において顕著に観察されるものであるが，線や色採や音の一定の結合，あるいは又，色，音，触感，形態，動きのある一定の構造ないし様相は，それぞれの種にとってある一定の感情や印象を個々の個体に体験させるのである（たとえばチンパンジーは木馬や小さなゴム製の飛び出た目をした人形をこわがる，人間にとって青空は鎮静的な作用をもつ，幼児は点々と散らばっている小さな赤色に快感を感ずる等々）。共感覚と呼ばれる現象はしたがって，たとえば色彩のある様相$n_1$が人間にある感情$s_1$を与え，音波のある様相$n_2$も人間に同じく感情$s_1$を与えるといった場合に生じる一種の共鳴現象であろう。）

*La Chatte* は全篇を通じて，基本的には Alain の情緒，気分，心理，感情といったもののフィルターを通して一つの結婚生活が破局に至る心理的過程が描かれているのであるが，その場合に Alain の感情や心理（＝すなわち生れつきの気質，生後の環境によって形成された性向といったものの中から刻々の時間の流れの中での生活体験が契機となって誘引される情緒一般）は，一つには庭の植物や風物がかたちづくる情景 ── Alain の目に映っている情景 ── についての情報を通じて表現されるとともに，Alain が見惚れる Saha の姿かたちについての情報を通じて，さらに又，天候や気温，湿度の多少といった気象上の情報を通じて暗示的に表現されている。たとえば，第一の場面から第二の場面に至る序章の部分で庭の植物や風物の記述は，必ず Alain が目にしている風景というかたちにおいてのみ企てられていて，Camille の目に写ったものとして Alain の家の庭の樹々や花々やその他の対象物が織りなす風景が記述されることは決してないのであるが，Alain の目にした風景としての庭の対象物群は以下に列記する如く凡て木と花と小鳥と虫と鉱物に限られ，しかもこれらの対象物の色合いを記述することばは，バラ色，すみれ色，虹，黄色，白など凡て淡い色，やわらか味を感じさせる中間色に限られているし，又これらの対象物は影のかたちの下に記述されていたり，月の光や朝日の透明な光を浴びていたりする場合が多い。又，対象物の嗅覚的側面では植物的な甘い香りについての情報がみられ，触感的側面ではむしとりなでしこのむく毛やポリゴームの総毛の例にみる如くやわらかくふわふわした対象物が記述されている。（例：Une donce odeur d'épinards et de foin frais / Le chèvrefeuille, qui drapait un grand arbre mort, apportait aussi le miel de ses premières fleurs (p.142)// une lune voilée, agrandie par la brume des premières journées tièdes / Un seul

arbre, un peuplier à jeunes feuilles vernissées, recueillait la clarté lunaire et dégouttait d'autant de lueurs qu'une cascade (p.144)// le cailloutis rosé d'une allée (p.146)// Les phares d'une voiture (·····) percèrent les feuillages de deux blancs rais tournants/ les ombres agrandies du cytise, d'un tulipier (p.151～152)// La grappe jeune du cytise pendait, translucide (p.155)// un édredon de silènes roses/ une écharpe de polygonum/ clématites violettes à quatre pétales/ un des appareils d'arrosage, debout sur son pied unique, rouait sur le gazon, ouvrant sa queue de paon blanc barrée d'un instable arc-en-ciel (p.157)// un pigeon blanc furtif (=la main gantée de maman)/ les wégélias et les deutzias à grappes rosées /deux verdiers/ une mesange (p.157～158)// un rosier jaune qui sentait l'ajonc en fleurs/ les mesanges par couples et les dernières hannetons (p.158)

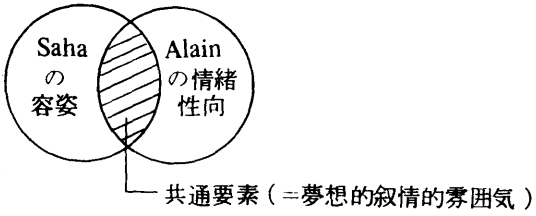
又，Alain によって眺められているという設定の下での Alain の家の庭の風物のこうした記述は，文脈の流れの中では Alain が Camille から，あるいは現実から，何らかの意味において心理的に逃避するという場面に位置づけられている。即ち，1. Camille の俗なおしゃべりに関心を示さずにふと眺める庭の風景；2. 現実の Camille ではなく壁に映った影法師としての Camille の姿に見惚れる時の背景の一部となる庭の風景；3. 結婚式の7日前の晩，Camille から解放されたあと，猫の Saha と一緒に寝室に行き窓ごしに目にする庭の風景；4. ベッドに入って夢の世界に入る前にヘッドライトに照らし出された姿，あるいは壁にうつる影としての庭の風物；5. 結婚式の6日前の朝，Camille の朝食するさまを頭に描いて異和感を感じたあと，目を移して眺める庭の風景；6. Camille からのがれる為に庭の暗闇にかくれて，そこで眺める庭の風物；7. 現実生活からのがれて子供時代に帰ったような錯覚を感じている時の背景となっている庭の風物；8. Camille が猛烈なスピード運転の可能なロードスターの効能を説いていたのを想い出して憂鬱になったあとで眺める庭の風物。Camille からの心理的逃避の場面において Alain は庭の風物を観賞するという構成がこのように第一の場面から第三の場面までを通じてみられるわけであるが，かかる構成によって Alain がこの上なく愛する庭の風物，つまり樹々や花々やの植物が主体となって織りなす叙情的な情景は Camille 的なものからの逃避の場としての意味が与えられ，同時に又，これらの風物がかたちづくる情景は先にみた如く，叙情的夢想的ニュアンスをもって統一的に描写されているわけであるから，結果的には庭の風物についての記述は Alain の情緒生活 ── Camille

のそれとは矛盾対立する情緒 ── 即ち，現実から逃避して少年時代に精神的に執着し続け，叙情的な夢想の世界に生きようとする傾向を暗示象徴するとともに，これらの叙情的な風物が Camille 的世界 ── 即ち性愛と情欲が根幹をなすところの動物的な欲情の世界 ── に対するアンチテーゼとしての世界をかたちづくることになるので，庭の風物はまさしく Alain の情緒や気分のアナロゴン（＝類同等価物）として，つまりは精神相貌上のイコン（＝似せて作られたもの）として機能している。

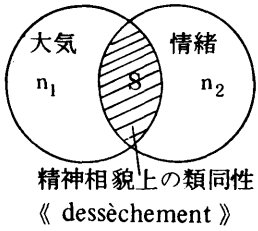


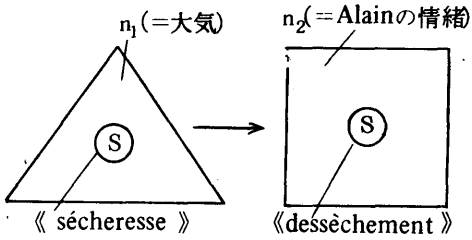

Alain が見惚れている Saha の姿かたちの記述には，第一から第三の場面の間に次のような例がみられるが，これらの例では色についての情報としては青 (bleu) が二回みられ，他には真珠色 (couleur de perle) とがあり，においについての情報としては植物の移り香のする毛並みとあり，聴覚的には Me-rrouin という鳴き声の記述があるほか，魔物 (demon) や美女にたとえてめでる Alain の台詞の記述もみられる。（例： Me-rrouin / la longue échine plus douce qu'un pelage de lièvre / les petites narines fraîches / Mon petit ours à grosses joue/ Fine-fine-fine chatte / mon pigeon bleu / un démon couleur de perle / chartreux / le plage de la chatte, chaud et frais, fleurant le buis taillé, le thuya, le gazon bien nourri / Baiser immatériel, rapide / un Saha diurne, innocente et bleue / aussi belle qu'un démon! / plus belle qu'un démon.)

Alain が夢中に讃美する Saha の容姿のあり方についての情報も又，上の例において察せられるように Alain の情緒や気分，を暗示象徴する為の複義的情報となっている。



又，*La Chatte* 全篇を通じて気候や天候の温度，湿度の多少などの気象的情報は凡て主として Alainの，又時には Camille の心理や感情を暗示的に表現するところの精神的相貌上のイコンとしての働きをもった複義的情報となっている。たとえば第四の場面，Alain が結婚式の翌朝，朝食をとって Camilleとの交りをすませたあとで Neuilly の生家に Saha の様子を見に帰ろうとする時，Alain は東から乾燥した風を顔に浴びるという記述があり，又第五の場面では乾ききった幹という記述が見られるが，これらの情報において大気の乾燥しているさまが示唆されている。一方，Alainはたった一晩生家を離れて Quart-di-Brie のアパートで一夜をすごしただけで既に"慰められる必要のある(il avait besoin d'être consolé)"のを感じている。つまり，心理的になんらかの欠乏感を感じている。大気中から水分がうばわれているように，Alainにとっても Alainの精神をうるおすもの，つまり夢想的少年としての心安まる叙情的な夢が Camille との生活においては奪われてしまうのである。したがって大気の乾燥はそのまま Alain の精神的涸渇を暗示する精神相貌的なイコンであるわけだ。

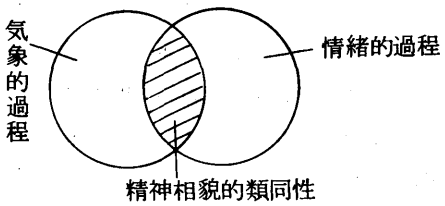



さらに又，第六の場面においても暑さによってテラスの植物が乾燥しているという情報によって大気の乾燥しているさまが示唆されているが，結婚生活に入ってすっかり満足してしとやかになった Camille にひきくらべて，精神的な欲求不満をつのらせつつある Alain の情緒をこの大気の乾燥が象徴しているのである。

第十の場面で Alain と Camille のいさかいの気象時背景には暗赤色に染まり夕靄に息をつまらせながら沈みゆく太陽 (le vaste soleil couchant de Paris, rouge sombre, étouffé de vapeur) →紫色の壁のような雲→稲光り→雷雨→静寂が設定されているが，こういった情報はそのまま二人のいさかいの心理的過程を暗示的に表現する複義的情報となっている。即ち，Camille と Alain が何げなくはじめた会話が徐々に険悪なムードに包まれ出し，最終的には Camille が Alain の鼻をひっぱ

り，Alain が腕の内側で Camille の手を振り払うという事態がクライマックスとなり，その後互いに心理的にはわだかまりがとれないながらもかりそめの和平が成立して二人は静かになるという情緒的過程が，気象的過程との精神相貌的な同一性を通じて表現されているわけである。したがってこの場合には気象的過程が情緒的過程を暗示象徴するところのアナロゴンないしイコンであると云わねばならない。



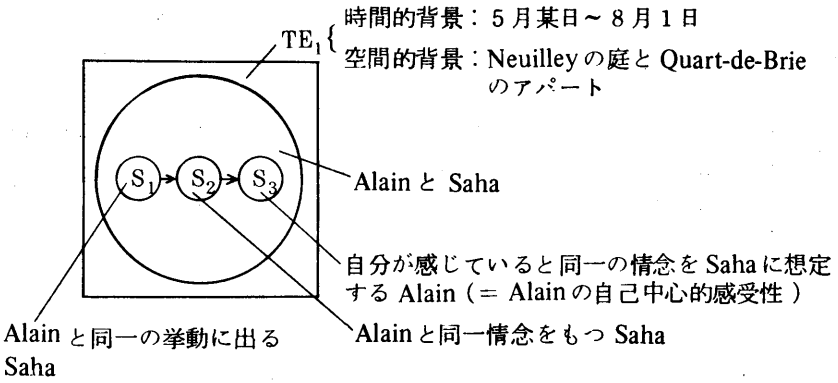

*La Chatte* にあっては，その他の大道具，小道具類も又，Alain の情緒や感情を暗示象徴する為のアナロゴンとして援用されているが，そのもっとも端的な例は第 18 の場面，Camille が Saha を 10階のテラスから下へつきおとしたらしいことを Alain が勘づいたあとの Alain の情念が夜空に炸裂する花火によって暗示象徴されている場合である。

Il étudiait en lui-même un frémissement qui ne venait pas de l'émotion récente, un frémissement comparable a un trémolo d'orchestre, sourd et annonciateur. De la Folie-Saint-James une fusée monta, éclata en pétales lumineux que leur chute flêtrit un à un, et le bleu nocturne recouvra sa paix, sa poudreuse profondeur. (p.221)

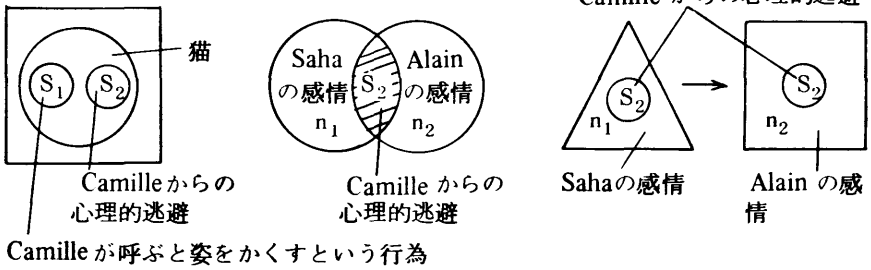
第一の場面から第三の場面までにおいて，Alain の情緒生活のニュアンスが庭の植物が主体となって織りなす幻想的な雰囲気をもつ情景において暗示され，これらの情景の色彩的側面についての情報ではロマンチックな淡い色や中間色群が示されていたのに反して，同じくこの導入部における Camille の外観の色採的側面については，赤い瓜という情報が一箇所に，赤い唇という情報が二箇所に，真赤なネクタイが一箇所に，したがって"赤色である"という情報が合計四箇所においてみられ，しかも白い指と赤い瓜，白い服に真紅のネクタイの例では，赤色に白色を配合することによってその赤さをさらに強烈に印象づけるべく工夫されている。さらにこうした"赤"の情報が与えられるのは，文脈的には凡て Camille が Alain に対して欲情を感じるという場面においてである。したがってこれらの"赤色"は Camille の情欲的感情を暗示するところの精神相貌的なイコンであると判断され，これらの情

報も又，イコン型手法に基づくところの複義的情報であることがわかる。

§6. 猫の Saha の動作や様態，あるいは情動の記述に関しては，それが単に一匹の猫についての何らかの情報をもたらすというだけのものである場合と，単に猫についての情報を与えるというにとどまらず Alainの情緒のあり方を暗示するための複義的情報である場合とが弁別されるが，後者の場合には猫の動作や態度あるいは情動などは凡て結果的には Alain の情緒や感情のアナロゴン（＝類同代価物）である。すなわちこの場合には， Alain と Saha はあたかも一心同体の如く描かれていて， Alain と Saha は同時的に全く同一の動作をしたり，相前後して同一の挙動にでたりするわけであるが，こうした Saha の挙動はあくまで Alainの自己中心的感受性においてのみ発現可能となるはずのものである。つまり， Alain は庭の風物に自らの感情や情緒を投射してそうした感情に色どられた情景をのみ一個の庭という物理的対象物から感受したと同様に， Saha に対しても常に自らの感情や情緒を投射して ── 自分自身が空腹である時に Saha を眺めると Saha は今お腹が空いているのだと思うという例に端的にみられるように ── 自らの情念と同一のものをSahaの挙動の中に読みとろうとするからである。したがって Sahaのこうした挙動についての記述群は全体としては Alainの自己中心的感受性を示唆するところのインデックス型の複義的情報をもたらすとともに，Sahaのこうした挙動についての個々の記述は Alain の感情を暗示するイコンをかたちづくるところの複義的情報をもたらすことにもなるわけだ。



$TE_2$ { 時間的背景：5月某日
空間的背景：Neuilly の庭




第一～第三の場面において，Saha についての情報が同時に又 Alain の感情を暗示する複義的情報となっている例を以下に若干ひろいあげて表にまとめてみよう。

| 日　時 | Saha についての直接的情報 | Alain についての直接的情報 | 暗示された情報（間接的情報） |
|---|---|---|---|
| 新婚の7日前の夜 a時 b分 | Camille を見ると庭のどこかにかくれに行ってしまう | Camille からのがれたい衝動を感じている | Alain の情念〔Alain と Saha の情念の同一性についての示唆に立脚しながら Saha の情念を Alain の情念のアナロゴンとして運用するところの，Alain の情念の強調的表現〕 |
| 同上 c時 d分 | 人々が Alainの家の庭に建てさせている新婚の住いの新築工事がはかどらないことを嘆いて話し合っているのを無感心に眺めている | 猫の態度にならって自分にとって興味のない話を我慢してきいている | |
| 同上 e時 b分 | Camille が人たちの静かな会話に割って入るいきおいのよさに気おされて Saha は思わず目をつぶる | Alain も思わず目をつぶる | |
| 同上 g時 h分 | Camille 一家が帰ったのを喜んで机の上に拡げられたトランプのカードを前足をひろげてかきまぜてしまう | Camille から解放されて生気をとりもどす | |

§7. 以上にいくつかの例をあげてきたインデックス型手法及びイコン型手法は，文脈において記述された事項，つまり文の字義通りの意味において読者に与えられている情報という単位をまず設定し，次にこうした直接的情報という単位が，読者

の側のインデックス型の知覚及びイコン型の知覚という，ホモ・サピエンスにとってごく基本的な二つの心性に働きかける時にもたらされる二次的な情報を指定し，これら一次的と二次的との二つの情報の間の論理的関係を分析する枠組において検出されてきたものであるが，任意の一次的情報がどんな二次的情報を派生させるかについての判断は，作品全体に含まれる情報群の網の目の中でのみなされうるものであることは云うをまたない。たとえば語彙の langue としてのレベルにおいて男という語彙（→ signifiant）が表示する類概念《男》（→ signifié）は対立概念であるところの類概念《女》の存在なくしてはありえず，男という語彙がそれ自身で単独的に類概念《男》を表示しうるような性質のものではないと同様に，任意の直接的情報 a（→ signifiant）がそれのみの存在において間接的情報 a′（→ signifié）を示唆せしめたりするということは記号というものの本性からして不可能事であり，直接的情報 a と間接的情報 b の間に《 signifiant 》と《 signifié 》の関係が成立つためには，これと相補的な関係に立つところの直接的情報（ signifiant ）→ 間接的情報（ signifié ）の組が少くとも一組以上見出されなければならない。さきにみたインデックス型手法の諸例では，Camille の行動一般の記述（ signifiant a ）は Alain の行動一般の記述（ signifiant b ）との対立においてはじめて間接的情報 sinifié a′ を獲得し，signifiant b も又 signifiant a との対立においてのみ signifié b′を獲得したわけであったし，イコン型手法の諸例においても，Alain や Camille の髪の色がそれぞれ単独的にこれこれの情緒傾向のイコンをかたちづくるというわけではなくて，インデックス型手法において与えられたいくつもの情報，つまり Alain と Camille の性向の対立を表現する signifiant-signifié の数多くの組が潜在するという事態に待ってはじめて検出されえたのである。すなわち作品中の複義的情報群は凡て，互に緊密に結び合い補い合い対立し合っているために，本来ならば有意味的であると見なされ得ないような瑣細な対立的情報 ── たとえば Alain が父親の没後の旧家の一人息子，Camille が新興ブルジョワの娘といった家庭環境についての情報 ── も情報群の二項対立の世界に組込まれることによって示唆的意味を獲得することになる。

又，*La Chatte* においてはある種の女性たちに特徴的に見られるいわば《雌性的》とでもいうべき傾向と，ある種の男性たちに特徴的に見られる一つの傾向（つまり《雌性的》傾向に反撥的に反応するような傾向）という二つの精神傾向の対立が複義的情報群の二項対立の核になっているので，かかる意味では Camille についてのインデックス型複義的情報群は凡て相互に《 synonyme 》の関係にあり，Alain

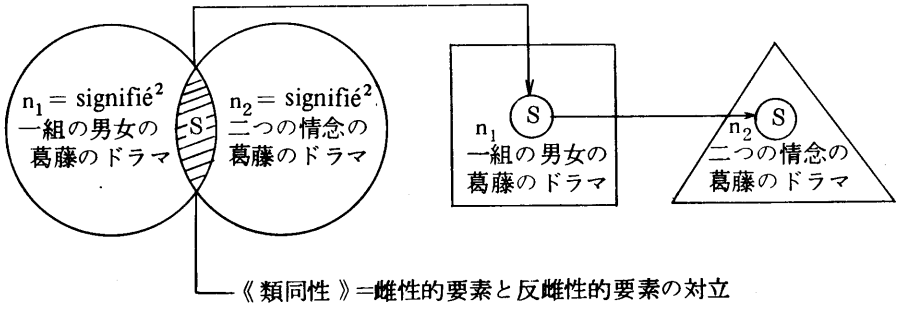
についてのインデックス型複義的情報群も又凡て《synonyme》の関係に立つ。一方，イコン型の複義的情報群に関しては，類同性の認知が精神相貌的把握に基づいている場合には，作中人物のその場その場の情緒や感情を理窟でではなしに肉体感覚的に読者に感得させるために用いられている例が殆どであり，Saha と Alain との同一的な挙動が Alain の情緒のイコン的表現であると見た場合には，これはAlain のその場その場での心理や情念を強意的に表現する為の一つの手法であるとみなされたわけであったが，これらのイコン型情報群は凡て，人物の一定の精神的傾向を示唆するところのインデックス型情報群によって潜在的に補なわれてはじめて，その意味づけが —— つまり類同性のつかみとり方が —— 一定の方向を得るのであり，《雌性的》傾向（＝性愛的，背徳的，俗物的，現実肯定的傾向）と反《雌性的》傾向（＝夢想的，叙情的，貴族主義的，現実逃避的傾向）の対立を表現するインデックス型情報群にしても，人物の刻々の感情の流れや情緒を感覚器官的にあるいは強意的に把握させるイコン型情報群に補なわれてはじめて，行動一般と性向の隣接関係が一定の方向づけを得て認知されるのである。つまり，人物のその場その場の情緒や感情を人物の《心理》と名付け，そういった刻々の情緒群や感情群に共時的にみられる一定の傾向を人物の《性格》と名付けるならば，人物の《性格》と人物の《心理》との間には，あたかも《langue》と《parole》の間にあると同様の関係がみられることになるが，情緒活動の《langue》としての《性格》の描写に主としてたずさわるインデックス型手法と情緒活動の《parole》としての《心理》の描写に主としてたずさわるイコン型手法とが人物の情緒活動全般の描写において相補的に機能していることになる。

§8. Colette の全 15 巻にわたって収録された尨大な作品群のテーマは大雑把に考えるならば，1. 男女関係をあつかうもの，2. 動物や植物を語るもの，3. 1と2を同時にふくむもの，の三つに大別されるが，Colette の実人生においても Colette は三度結婚し，二度離婚していて，男女関係の面でさまざまな苦しみを体験したことが知られ，日常生活の面では犬や猫，時にはその他の動物たちを数多く愛玩しており，植物に対しても並はずれた愛着を示していたことが知られている。

*La Chatte* の構想に際しては，*La Nudité* に報じられているある出来事（Colette の知人の娘ともう一人の知人の息子とが結婚したが，結婚初夜の翌朝，新妻の方が全裸で部屋の中を自由に歩き回り，同じく一糸もまとわずに朝食の用意されたテーブルについたりしたが，夫がそれを見とがめたのでけんかになった）についての打明け話を聞かされたことがヒントになったとかりに考えるならば，[註8] このエ

ピソードを聞いた時に Colette が感じたある種の感興，ある種の感慨 ── Colette 自らの人間観，人生観とりわけ性愛観とわかちがたく結びついたこの感慨 ── を端的なかたちで表出させるような一つの虚構の物語を構想したものが結果として *La Chatte* というテクストのかたちをなしたのでもあろうが，さきに述べたような Colette の実生活のあり方を参照するならば，Colette の内なる情念を支配する二つの傾向，相反する二つの傾向の葛藤を象徴するような内容をカミーユ的女性とアラン的男性の葛藤において無意識的に盛り込んでいったのではないかとも考えられる。即ち，庭の植物を愛し，猫を可愛がり，成人してもなお子供時代に執着している Alain とは，Colette が常にノスタルジーをこめて語る Colette のあの母親のそばで ── 愛情に満ち満ちたいわば大母性の人として Colette が描いている Colette の母，Sido のそばで ── 樹々や花々にかこまれて性愛のよろこびも苦しみも知らずにすごした幸福な少女時代という過去の幻影から終生のがれることができずにいた Colette の一面を象徴する人物像であり，Camille とは，女性的というよりもむしろ《雌性的》とでもいった方が適切な Colette のあの感受性 ── すなわち男女関係をあつかった Colette の作品ににじみでているあの性愛的雰囲気 ── の一面を象徴する人物像であるともみることができるのである。このような解釈がかりに成り立つとするならば，カミーユ的女性とアラン的男性の対立とは作品解釈のあるレベルにおいては，成熟した雌としての情念とこうした情念のアンチテーゼとしての反《雌性的》情念 ── 即ち成人としての性(セックス)から逃避して《性》のない子供時代に執着しようとする情念 ── という一個人の精神内部での二つの情念の対立のアナロゴンであるといわねばなるまい。かかる見地においては，*La Chatte* というテクスト全体を《signifiant》と考えるならばその《signifié》は，一組の男女の葛藤のドラマであり，さらに二次的にはこの《signifié》全体が signifiant となるようなレベルが設定されて，このレベルにおける signifié は個人の精神における相反する二つの情念の葛藤のドラマであるということになり，この場合には signifiant と signifié の関係は下図の如くイコン型手法によって保持されていることになる。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2. | | signifiant$^2$ | signifié$^2$<br>個人の精神における二つの情念の葛藤のドラマ |
| 1. | signifiant$^1$<br>ニテクスト | signifié$^1$ =<br>一組の男女の葛藤のドラマ | |




註1） Variété 2号　銀林堂（京都）

註2）京都大学フランス文学研究室発行，非売品

註3）フランス語フランス文学研究21号，白水社

註4）フランス語学研究7号，大修館

註5）小説の筋書を要約するという作業は，その小説を如何に読むかという各個人のあり方に依存している。したがって本稿で記した *La Chatte* の筋書は当然のことながら，この作品のさまざまの文脈を通じて一読者としての筆者が把握したところの作品の《事実像》ないし《論理像》── 写実小説とは虚構の時空の世界を組み立てて，現実の時空を背景として生ずる現実の一つの事件になぞらえた一つの虚構の事件を叙述するものであるから，小説として組み上げられたこの虚構の事件がかりそめに現実の出来事であると仮定してみるなら，この事件の真相を如何に把握すべきかを考える時に抽出されるところの，その事件の論理的核心を作品の事実像と呼んでいるのであるが── をかりに記述したものであるから，別人の手になれば筆者とは別様の読みとり方に基づいて，又別様の《事実像》が抽出されてしかるべき性質のものである。（何故なら，登場人物の名前，年齢，職業，家庭環境，出来事の時間空間的背景── つまり日時や場所── あるいは又，出来事の客観的側面── たとえば何某が某月某日に結婚したあるいは離婚した等々の歴史的事実── に関しては個人差のない記述が得られようが，出来事相互の因果関係の把握や作中人物の性格，性情，心理などの把握に関しては，読者各人の生活体験，人生観，ものの考え方感じ方全般のちがいに応じて，又 Colette の他の作品群をどれだけ読みColetteの伝記をどれだけ調べあげ，なおかつそれらをどのように解釈するかのちがいに応じて，理解と把握のあり方がちがってくるからである）

註6）本稿で示した作品の構成についての tableaux はただ単に *La Chatte* を読

んでいない人のために作品全体の輪郭を明確に提示することによって，本題に入って示す細部の手法分析についての論考を *La Chatte* の未読者にとっても理解しやすいものとしたいというつもりでこころみたものであるから，作品構成の分析それ自体が目的ではないが，各人が把握した作品の論理像ないし事実像ともいうべきものを（註5を参照のこと）記述するには，いわゆるあらすじとして，ことがらの因果関係についての把握の一つのあり方をひとまとまりの文章で記述し，第二の側面においては各エピソードの展開される時空（＝日時と場所）を考慮して作品の全体をいくつかの場面に分割することによって通時的に記述し，第三の側面においては通時的なものの中から共時的な要素が抽出されうるような枠組を設けて記述するという方法が写実的な作品に対してかなり有効であると思われ，ことに *La Chatte* のように演劇的な構成をとっている小説の論理像ないし事実像ともいうべきものの記述には一番明示的なものになると思われたので，本稿ではかかる方法をとった。

註7）文脈において直接的にもたらされる情報に関しての8種類の分類法は，字義通りの直接的な情報とは何を意味するかを示すためだけのあくまで便宜的なものであるが，少くとも *La Chatte* は本稿で示したごとくにその文脈内容を分類することが可能である（もちろん，別様に分類することも可能であることは云うまでもない）。たとえば冒頭の文，Vers dix heures, les joueurs du poker familial donnaient des signes de lassitude. は時間についての情報とトランプをして遊んでいるところであり，みんな疲れてきた頃であるという生活上の状況についての情報を与えるものであるから，6と7のタイプの情報が抽出され，以下に記した *La Chatte* 末尾のパラグラフでは Camille の知覚についての情報，（→猫と Alain の姿を目にする）Camille の行為についての情報（→ Elle s'arrêta court, eut un élan comme pour retourner sur ses pas. Mais elle ne balança qu'un moment, et s'éloigna plus vite.）Alain の行為と様態についての情報（→Alain à demi couché jouait, d'une paume adroite et creusée en patte, avec les premiers marrons d'août, verts et hérissés.）Saha の行為と様態についての情報（→Saha, aux aguets, suivait humainement le départ de Camille.）, Saha の情緒（→ aux aguets 及び humainement の部分），まわりの事物についての情報（→ Une courbe de l'allée, une brèche dans le feuillage, les premiers marrons d'août verts et hérissés の三箇所）が与えられているから，情報のタイプとしては 1, 3, 5, 8 の4つのタイプが抽出されることになる。

Une courbe de l'allée, une brèche dans le feuillage permirent à

Camille de revoir, à distance, la Chatte et Alain. Elle s'arrêta court, eut un élan comme pour retourner sur ses pas. Mais elle ne balança qu'un moment, et s'eloigna plus vite. Car si Saha, aux aguets, suivait humainement le départ de Camille, Alain à demi couché jouait, d'une paume adroite et creusée en patte, avec les premiers marrons d'août, verts et herissés.

註8) 川口博氏の *La Chatte* の翻訳(新潮文庫)のあとがきには, 〃《裸体》という文章の中で, コレットはこの小説のヒントを或る男の打明話から借りたとのべている〃とあるが, *La Nudité* には脚色された実話とおぼしきエピソードが単に報じられているだけで, このエピソードが *La Chatte* のヒントになったとは書かれていないのでこの点については実際のところは不明である。

⁂

使用テキスト: Oeuvres Complètes de Colette, IX, Flammarion